

令和4年度 第2回 大阪府堺市保健医療協議会

医療・病床部会 議事概要

日時: 令和5年1月19日(木)午後2時から午後4時20分

開催場所: 堺市役所 本館地下1階 大会議室

出席委員: 16名

(委員定数 22名、定足数 11名であるため有効に成立)

岡原委員、大里委員、尹委員、片岡委員、亀井委員、亀山委員、河内委員
高橋委員、田端委員、西尾委員、堀委員、前川委員、前島委員、前原委員
宮奥委員、横田委員

■議題1 令和4年度「地域医療構想」の取組と進捗状況

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課から説明

【資料1】令和4年度「地域医療構想」の取組と進捗状況

【資料5】二次医療圏における各医療機関の診療実態

【資料5(別添)】堺市二次医療圏における各医療機関の診療実態

【参考資料1】過剰な病床の状況

【参考資料2】医療法上の過剰な病床の状況

【参考資料3】地域医療構想に関する各種データHP公表について

【参考資料4】重点支援区域について

【参考資料5】病床機能の再編支援について(申請病院一覧)

【参考資料6】医師の働き方改革について

(質問)

○2026年度から新たな構想に基づく取組を進めていくことになるが、2025年に向けての目標から方向転換するのであれば、医療機関も困惑するだろう。推計を適宜見直していくことも必要ではないか。

(大阪府の回答)

○実際、2025年の必要量と実態は乖離が生じるので、必要量の見直しの必要性は、国にも伝えていきたい。

■議題2 令和4年度堺市二次医療圏「地域医療構想」の進捗状況

■議題3 令和4年度堺市二次医療圏「地域医療構想」の進捗状況

資料に基づき、堺市健康福祉局健康部健康医療政策課から説明

田中会田中病院の慢性期への転換計画については、本部会としては認めることで保健医療協議会に報告することとなった。

【資料2】令和4年度「地域医療構想」の取組と進捗状況

【資料3】令和4年度病院プラン医療機関別一覧(堺市二次医療圏)

【資料4-1】令和4年度堺市病院連絡会結果(概要)

【資料6】非稼働病床の現況について

(質問)

○療養病棟入院基本料の SCR データについて、堺市二次医療圏では十分に医療が提供できているようにデータとして表れているが、これは医療機関所在地ベースで抽出しているものであり、他の医療圏の患者からの流入も含まれるので、これ以上慢性期病床は不要という議論にはならないのではないかと。疾病によって、圏域単位で見れば不足しているものも、大阪府全体で見ると対応できていることもある。どこまで医療圏単位のデータの凹凸を許すのか。

(大阪府の回答)

○緊急性の高い疾病は圏域内での医療体制確保が必要で、そうでないものは全体で考える等、疾病によって状況は異なる。そのような状況を踏まえながら何が地域で必要かご意見を頂戴できればと思う。SCR データを出した背景として、今までは病床数の必要量と現状の病床機能報告の数の差で、過不足をご確認いただいていたが、より現状を把握いただくための参考としてだしている。SCR データのみをもって充足しているかどうかの判断は難しい。

(質問)

○回復期病床への転換以外の議論、また、急性期ケアミックス型病院と後方支援ケアミックス型病院の転換以外の回復期機能の強化について詳しく説明してほしい。

(堺市の回答)

○完全に回復期病床への転換をする議論だけではなく、急性期ケアミックス型病院と後方支援ケアミックス型病院を担っている医療機関は、主には慢性期機能を担いながら、回復期機能の役割も併せて担うことは考えられないかと、また、いかに堺市内の回復期機能を充実させていくかを議論できればと考えている。

(田中会田中病院の説明)

【資料4-2】田中会田中病院の病床運用について

○急性期医療機関から療養目的を含めた入院依頼が多く占めている状況であることから回復期(地域一般入院料3)フロア全てを慢性期(療養病棟入院料1)へ転換を検討している。転換後も引き続き、急性期病院からの患者の受入れを継続し、回復期機能の役割も担っていく。

(意見等)

○都市部においては、医療圏を超えての流入患者は多いので、堺市二次医療圏だけでなく、他圏域をカバーされているのであれば慢性期への転換も問題ないのではないかと。

○民間の医療機関が地域のニーズ、ポジショニングに照らし合わせて計画している

ものに対し簡単に反対とは言いにくく、地域のニーズに応じて頑張っていたければいい。

(質問)

○大阪府としては過剰となる慢性期病床への転換であっても、回復期の機能を担うのであれば転換も認めるとの見解なのか。

(大阪府の回答)

○地域医療構想の原則として、過剰な病床機能への転換は望ましくないが、数だけで議論して良いものではない。過剰な病床への転換ではあるが、地域でのニーズに基づいて必要なのか、引き続き回復期を担っていただけるのか、その受け皿はどうなっていくのか等の観点に基づき、地域で協議され合意されるのであれば尊重する。

(質問)

○田中会田中病院が慢性期に転換しても、引き続き回復期の役割を担っていくことをもって過剰病床への転換に同意するのは、地域医療構想として整合性がないのではないのか。他圏域からの流入や地域性を加味した上で同意するのは論理として成り立つ。

(大阪府の回答)

○大阪市も堺市も慢性期は過剰病床であるので、他圏域からの流入をもってという理由のみで合意するものではないと考えている。

■議題4 外来機能報告の報告期限の延長について

資料に基づき、大阪府健康医療部保健医療室保健医療企画課から説明

【参考資料7】厚労省 外来機能報告制度に関する説明会(令和4年12月)資料

(意見等)

○特になし

■議題5 地域医療への協力に関する意向書の提出状況

資料に基づき、堺市健康福祉局健康部健康医療政策課から説明

【資料7】地域医療への協力に関する意向書提出状況

(堺市二次医療圏 診療所新規開設者)

【資料8】地域医療への協力に関する意向書提出状況

(堺市二次医療圏 医療機器新規購入・更新者)

(意見等)

○特になし

- 議題6** 第7次大阪府医療計画における取組状況の評価について
資料に基づき、堺市健康福祉局健康部健康医療政策課から説明
【資料9】第7次大阪府医療計画 PDCA 進捗管理 堺市二次医療圏

(意見等)

○特になし

■**議題7** その他

資料に基づき、堺市健康福祉局健康部健康医療政策課から説明
【資料10】堺市二次医療圏における病院群との連絡調整の場の創設(案)

(質問)

○病院連絡会とは何が違うのか。

(堺市の回答)

○病院連絡会は年1回の開催で、主に地域医療構想について議論いただいている。
新しく創設する連絡調整の場では、個別の事象や課題について取り上げる予定
としている。また、基本的に、全病院を対象にご出席いただく予定だが、案件の
内容によっては少数の医療機関での開催の場合もあると考えている。

(その他意見等)

○病床の規制について、特定機能を果たす病床であれば、例外的に有床診療所
の開設や増床を許可して良いという特例がある。病床規制があるから1床も許可
できないと一律で断るのではなく、特例があることについて説明するべきではな
いか。

(大阪府の回答)

○現場で、申請のあった医療機関にどのように現状を説明しているのか確認させ
ていただく。

(その他意見等)

○非稼働病床について、使用していない病床にも関わらず、数だけカウントされて
いる。何年も使用していない非稼働病床はカウントする必要があるのか検討して
ほしい。

(大阪府の回答)

○非稼働病床になっているものについては、地域の協議会等での意見を踏まえ対
応することとなっており、意見があれば必要な対応を行う。